

科目名	社会哲学特講	担当者	ナカザワ 中澤 ヒトミ 瞳	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	---------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	社会哲学特講は、哲学の文献の精読と解釈を通して、自明のものとなっている社会規範を捉えなおし、哲学的な視点から批判的に、論理的に考察することを目的とする講座である。この講座を通して、以下の能力を身につけることを目的とする。 (1) 文献の読解、要約、解釈、説明を行い、それをもとに論述することができる。 (2) 身の回りの出来事の中から問題を発見し、分析し、批判的な思索を行うことができる。		
到達目標	【一般目標 (GIO)】 基本教材である文献の内容を正確に読み取ることができる。(思考/知識・解釈) 文献の内容を前提として、関連する問題を考察することができる。(思考/知識・問題解決) 【行動目標 (SB0s)】 (1) 『第二の性』の主張を理解し、説明することができる。(知識・解釈) (2) テーマに即した問題を身の回りの中に発見し、考察することができる。(知識・問題解決) (3) 問題を立て、その問題を通して自らの見解を論拠と一緒に提示することができる。(技能)		
学修方略 (方法)	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 教材の読解とレポートの作成が主であるが、これに加えて身近なところから問題を発見し、考察することも課題には含まれている。この作業は、主体的な学び、深い学びにつながっている。また、レポートの往復や manaba folio 上でのやりとりを介して、読み手を考えた論述、表現について学ぶことができる。この作業は対話的な学びにつながっている。 【学修方略 (LS) と学修時間】 レポートの作成。(レポートの作成のためには、文献収集、文献読解、問題と主張と論拠の設定、アウトラインの作成、レポートの執筆、推敲、修正などが含まれる。) 一次文献(本講座では『第二の性』)の読解、および二次文献(本講座では『第二の性』、あるいはボーヴォワールの思想についての解説、研究などがなされている文献を指す)の情報収集と読解に合計 25 時間以上、提出までのレポートのやりとり(レポート執筆、指導、再提出などのやりとり)に 20 時間以上を目安としている。[最低 45 時間の学修時間を要する]		
スケジュール	レポートは前期(9月)・後期(1月)に提出期限が設定されている。学事歴で定められた日までに提出すること。基本教材1のレポート課題1、レポート課題2、そして基本教材2のレポート課題1、レポート課題2ともに<u>締め切りの一か月前までに初稿を提出</u>すること。Manaba folio 上の添付でやりとりを行い、完成まで執筆する。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80 %	課題レポートを重視する。課題未提出の場合、評価は行わない。
	観察記録	20 %	レポート添削への対応や往復による学修姿勢により評価。
履修者への要望	(1) 哲学の文献を読み、その内容を理解することは簡単なことではありません。したがって、まず文献を精読する必要があります。精読するためには、以下の点に特に注意して、段落ごとにメモを取りながら読むようにしてください。①その段落の中で中心的話題となっているものはなにか。②中心的話題に対して、どのような意見が提示されているか。③その意見はどのような理由によって根拠が与えられているか。④その段落の内容は、前後の段落の内容とどのような関係にあるのか。 (2) 哲学の文献の内容を他人に説明することもまた容易ではありません。説明の際には、精読した際のメモを見ながら、以下の点に注意して、文献全体をまとめるようにしてください。①文献全体としてなにが問題になっているのか。②その問題を通して、著者はなにを主張しているのか。③その主張の根拠となっているものはなにか。 (3) 自らの考察を他人に分かってもらえるように説明するのも簡単ではありません。読み手を常に意識して、独りよがりの文章にならないように気をつけるために、論述の際には以下の点を明確に書くように注意してください。①問題は何か(この講座の場合はレポート課題の設題)。②その問題を通して、どのような見解を提示するのか。③その見解の根拠はなにか(根拠のもとなる文献、データはなにか)。④先行研究の中でその見解はどのような位置づけを持っているか。⑤予想され得る反論とその反論の根拠はなにか。⑥反論にどのように再反論できるか。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： シモーヌ・ド・ボーヴォワール 教材名： 『第二の性』を原文で読み直す会訳『第二の性 I 事実と神話』新潮社、2001 年、ISBN: 4102124101、または生島遼一訳『ボーヴォワール著作集 7 第二の性**』人文書院、1966 年、ISBN: 4409110071
	『第二の性』はシモーヌ・ド・ボーヴォワールによって 1949 年に出版された、女性についての哲学的論考である。フェミニズム運動と理論の中では古典的作品であるが、本国フランスで研究対象となったのは最近のことであり、それまでは自伝的文学作品として位置づけられていた。日本で最初に翻訳された際、訳者によって構成が変更された経緯があるが、現在では原書通りの構成で翻訳が出版されている。 『第二の性』には二種類の翻訳がある。ひとつは『第二の性』を原文で読み直す会訳が訳したもの。もうひとつは生島遼一が訳したものである。どちらの翻訳書を使用するかによって、教材としての該当巻数、頁数が異なるので注意すること。なお、『第二の性』を原文で読み直す会訳は、現在古本での入手しかできないが、可能な限りこの翻訳を使用して欲しい。
参考図書	・ボーヴォワールおよび『第二の性』に関する解説書のひとつとして 村上益子『ボーヴォワール』清水書院、1984 年) ISBN : 978-4-389-42074-1 1,320 円 (税込) - シモーヌ編集部編『シモーヌ (Les Simone)s VOL. 1——特集: シモーヌ・ド・ボーヴォワール「女であること」: 70 年後の《第二の性》』現代書館、2019 年、ISBN : 978-4-7684-9101-0 ・フェミニズム、ジェンダー学の入門的で網羅的な文献のひとつとして 井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編、2002、『岩波 女性学辞典』岩波書店、ISBN : 9784000802031 - 木村涼子・伊田久美子・熊安貴美江編、2013、『よくわかるジェンダー・スタディーズ』ミネルヴァ書房、ISBN : 9784623065165、定価 2,860 円 (本体 2,600 円 + 税) - 金井淑子・江原由美子編『フェミニズムの名著 50』平凡社、2002 年、ISBN : 9784582472288 ・フェミニズムの入門書として、またフェミニズムに懐疑的ないし嫌悪感を抱く人々にも向けて書かれた有名な書として ベル・フックス (堀田碧訳)『フェミニズムはみんなのもの 情熱の政治学』エトセトラブックス、2020 年、ISBN : 978-4-909910-08-0 ・Q&A 方式で書かれ、自分で考える手がかりを与えてくれる書として 佐藤文香監修・一橋大学社会学部佐藤文香ゼミ生一同『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた——あなたがあなたらしくいられるための 29 問』明石書店、2019 年、ISBN : 9784750348520 ・また、フェミニズムやジェンダーの問題を問う自分自身の立場についても考えるきっかけを与えてくれる書として、 岡真理『新装版 彼女の「正しい」名前とは何か—第三世界フェミニズムの思想』2019 年、青土社、ISBN : 978-4-7917-7210-0
履修上のポイント	『第二の性 I 事実と神話』(『ボーヴォワール著作集 7 第二の性**』) は、「女性とはなにか」という問いが、運命 (第一部)、歴史 (第二部)、神話 (第三部) という三つの視点から批判的に考察されている。レポート課題に直接該当するのは、序章および運命 (第一部) であるが(『第二の性』を原文で読み直す会訳 pp. 9-130、生島遼一訳 pp. 133-208)、第二部、第三部も含めて通読すること。
レポート課題 1	『第二の性 I 事実と神話』の序章と第一部を章ごとによく読んで、これまで女性がどのように考えられてきたかについて、章ごとにその内容を説明すること。 留意点: ボーヴォワールが論述の中で使用した「他者 (化)」「内在と超越」「主体-客体」という概念には必ず触れ、その概念が意味するものも説明すること。
レポート課題 2	リポート課題 1 でまとめた内容を前提として、「女性の他者化」とはどのような現象なのか、身近な題材を例にとって具体的に説明すること。 留意点: 具体的な事例から考えることが重要である。取り上げた事例が「女性の他者化」の現象と言えるかどうか自信がない場合には、『第二の性』を読み直し、女性の他者化についてボーヴォワールがどのように説明しているのかを理解すること。

基 本 教 材 2	
教材の概要	著者名： シモーヌ・ド・ボーヴォワール 教材名： 『第二の性』を原文で読み直す会訳『第二の性 II 体験 [上]』新潮社、2001 年、または生島遼一訳『ボーヴォワール著作集 6 第二の性*』人文書院、1966 年
	概要は上に記した通り。『第二の性』を原文で読み直す会訳は、現在古本での入手しかできないが、可能な限りこの翻訳を使用して欲しい。
参考図書	上に記した通り。
履修上のポイント	『第二の性 II 体験 [上]』(『ボーヴォワール著作集 6 第二の性*』) において、ボーヴォワールは、女性が教育と習慣によって形作られるということを論じている。レポート課題に直接該当するのは、序および第一部第一章、第二章であるが(『第二の性』を原文で読み直す会訳 pp. 9-206、生島遼一訳 pp. 9-135)、その他も目は通すこと。
レポート課題 1	『第二の性 II 体験 [上]』(『ボーヴォワール著作集 6 第二の性*』) の第一部第一章、第二章をよく読んで、子ども時代、娘時代を通じて、女性はどういうようにして、どのような存在として形づけられるとボーヴォワールは論じているのか、その内容を章ごとに説明すること。 留意点: ボーヴォワールは、少年と少女を比較しながら論じている場合には、その比較に注意してまとめること。
レポート課題 2	リポート課題 1 でまとめた内容を前提として、「女性らしさ」について身近な題材を例にとって具体的に考えること (なお「男性らしさ」について合わせて考えても良い)。加えて、ボーヴォワールの見解の妥当性を吟味すること。 留意点: ボーヴォワールの見解の妥当性の吟味とは、ボーヴォワールの意見を論拠に即して検討することを指す。ボーヴォワールは「女性は教育と習慣によって形作られる」というが、はたしてそう言えるのか、言えるとしたらどのような意味で言えるのか、あるいはそう言えないとするなら、どの点に誤りがあるのかを明確に示すこと。

基本教材 1

第 1 回	リポート課題 1 を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第 2 回	リポート課題 1 を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第 3 回	リポート課題 1 を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第 4 回	リポート課題 1 を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第 5 回	アウトライン（書くための段取り）を作り、初稿の完成を目指す。
第 6 回	リポート課題 1 初稿の完成を目指す、うまく進行しない場合には教材の読解作業に戻る。
第 7 回	リポート課題 1 について最終稿を作成する。
第 8 回	「女性の他者化」（リポート課題 2）を説明するための身近な題材を探し、具体的に考える。
第 9 回	「女性の他者化」（リポート課題 2）を説明するための身近な題材を探し、具体的に考える。
第 10 回	「女性の他者化」（リポート課題 2）を説明するための身近な題材を探し、具体的に考える。
第 11 回	「女性の他者化」（リポート課題 2）を説明するための身近な題材を探し、具体的に考える。
第 12 回	アウトライン（書くための段取り）を作り、初稿の完成を目指す。
第 13 回	リポート課題 2 初稿の完成を目指す、うまく進行しない場合には教材の読解作業に戻る。
第 14 回	リポート課題 2 について最終稿を作成する。
第 15 回	リポート課題 1、2 を見直し、課題の理解を深める。

基本教材 2

第 1 回	リポート課題 1 を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第 2 回	リポート課題 1 を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第 3 回	リポート課題 1 を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第 4 回	リポート課題 1 を念頭に置きつつ教材の読解を行う。
第 5 回	アウトライン（書くための段取り）を作り、初稿の完成を目指す。
第 6 回	リポート課題 1 初稿の完成を目指す、うまく進行しない場合には教材の読解作業に戻る。
第 7 回	リポート課題 1 について最終稿を作成する。
第 8 回	「女性らしさ」について身近な題材から具体的に考え、ボーヴォワールの見解の妥当性を吟味する。
第 9 回	「女性らしさ」について身近な題材から具体的に考え、ボーヴォワールの見解の妥当性を吟味する。
第 10 回	「女性らしさ」について身近な題材から具体的に考え、ボーヴォワールの見解の妥当性を吟味する。
第 11 回	「女性らしさ」について身近な題材から具体的に考え、ボーヴォワールの見解の妥当性を吟味する。
第 12 回	アウトライン（書くための段取り）を作り、初稿の完成を目指す。
第 13 回	リポート課題 2 初稿の完成を目指す、うまく進行しない場合には教材の読解作業に戻る。
第 14 回	リポート課題 2 について最終稿を作成する。
第 15 回	リポート課題 1、2 を見直し、課題の理解を深める。